



からしだね

2022年11月号
(586号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任： 中村克徳司祭

住所： 〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL： 072-751-2400 FAX： 072-753-4624

URL(ホームページ)： <http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

巻頭言 教皇フランシスコ、2022年9月11日「お告げの祈り」でのことば

11月ガラスケースのみ言葉と
中村神父による解説

カール記念館と司祭館のドア・ホーンを更新

ノノイ神父様が播かれた種を育て続けます！ お元気で…

みんなの談話室
ノノイ神父様のフィリピン通信 I

表紙の絵について

宝塚黙想の家からのお知らせ

巻頭言

見失った一匹の羊、失くした一枚の銀貨、放蕩息子のたとえ話について

教皇フランシスコ、2022年9月11日「お告げの祈り」にて

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、こんにちは。

今日の典礼の福音箇所は、いつくしみに関する三つのたとえ（ルカ 15:4～32 参照）です。これらは神のいつくしみ深いところを示しているのです、そう呼ばれています。ファリサイ派の人々や律法学者たちが「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」（同2節）と不平を言うのを受けて、イエスはこれらのたとえを話されます。イエスが罪人たちの中にいたため、彼らは苦々しく思っています。彼らにとって、宗教的に受け入れがたいことであっても、罪人たちを招き、ともに食卓を囲むことで、イエスはわたしたちに、神はこのような方だと教えられます。神は誰も排除なさいません。神はすべての人に食卓を囲んでほしいと望まれています。というのも、すべての人をご自分の子どもとして愛しておられるからです。すべての人です。だれも排除されません。すべてのひとです。そして、この三つのたとえは、福音の中心にあるものをまとめています。つまり、神は御父であり、わたしたちが迷った時はいつでも、わたしたちを探しに来てくださるということです。

実際、このたとえの主人公たちは、見失った羊を探す羊飼いであり、無くした銀貨を探す女性であり、放蕩息子の父親ですが、すべて神を表しています。この三人の主人公たちが共通して持っている点について考えてみましょう。三人は全員が本質的に共通のものもっています。それは以下のように言えるでしょう。失ったものに対して心配するところ——あなたが迷子になった羊であれ、無くなった銀貨であれ、遠くへ旅立ってしまった息子であれ——何か失ったものを心配しているのです。このたとえの三人の主人公は、失ったもののことを思っているのです、心配しています。結局、三人全員が計算高くあれば、心配せずにいるでしょう。羊飼いは見失った一匹を思いますが、他に99匹がいます。「見失ったままにしておこう」と思うかもしれません。女性も一枚の銀貨を無くしましたが、他に9枚持っていました。放蕩息子の父親でさえ、他に従順で手塩にかけてもよい別の息子がいました——それなのになぜ、墮落した生活を送るために遠くへ旅立った息子を思うのでしょうか？それでもなお、三人——羊飼いや女性、父親——はこころの中で、失ったもの、つまり一匹の羊、一枚の銀貨、遠くへ行ってしまった息子に対して心配しています。愛する人は、見失ったものに対して心配します。いなくなってしまったものを待ち焦がれ、無くなってしまったものを探し、道を外れてしまった者を待ちます。なぜなら、誰も失いたくないからです。

兄弟姉妹の皆さん、神はこのような方です。わたしたちが神から離れてしまうと、神は「安心」してはおられないのです。悲しみ、こころの奥底から震え、わたしたちがみ腕に戻るまで、探しに来られるのです。主は、損失やリスクを計算されません。父や母のこころを持っておられ、愛する子どもたちを失うことで苦しまれるのです。「けれどもなぜ、その息子がろくでなしで、出て行ってしまったのに苦しまれるのでしょうか？」。主は苦しみに苦しめます。わたしたちが離れたり、迷ってしまったりするとき、主は苦しめます。そして、わたしたちの帰りを待っておられます。神はいつも、わたしたちが迷ってし

もう人生のどのような状況でも、わたしたちを、腕を広げて待っていてくださいます。詩編にこうあります。主は、まどろむことなく、眠ることもない。いつもわたしたちを見守っておられる（詩編121・4～5 参照）。

では今度は、わたしたち自身を見つめ、こう問いかけましょう。主のこの姿に倣っているだろうか？つまり、見失ったものに対して心配しているだろうか？キリスト者の生き方から離れて行ってしまった、見失った人たちのためにここを痛めているだろうか？心に不安を抱えるだろうか？それとも、穏やかなまま、まったく気にしないでいるだろうか？言い換えると、わたしたちの共同体から離れて行ってしまった人たちの思っ、真に寂しく思っているだろうか？それとも、なかったことにして、ここを荒立てないでいようとするだろうか？いなくなった人たちの思い、生活の中で真に寂しく思うだろうか？それとも、わたしたちの中にいれば心地良く、このグループ内で平穩に満足し——「とても素晴らしい使徒的なグループに属している」と満足し——離れてしまった人たちに対する思いやりに欠けていることはないか？これは単に、「他者にここを開いている」かどうかという問題ではなく、福音の問題なのです。たとえに出てきた羊飼いは、「他に99匹いるのに、見失った一匹を探しに行つて時間を無駄にしなければならないのか？」とは言いませんでした。そうではなく、彼は探しに行きました。わたしたちの関係性についても深く考えてみましょう。信じていない人、離れて行った人、辛い思いをしている人たちのために祈っているでしょうか？わたしたちの寄り添いであり、思いやりといつくしみである神のなさり方、つまり、寄り添い、思いやり、いつくしみを通して、離れてしまった人を招き入れているでしょうか？御父は、御父がもっとも会いたいと思われている子どもたちに対して、ここを配るよう、わたしたちに求められています。わたしたちが知っている人で、わたしたちの近くにいるけれども、誰からも「あなたは神にとって大切な人です」と言われたことがない人のことを考えてみましょう。その人は「けれども、わたしは普通ではない状況にいて、あれこれと悪いこともしてきました」と言うかもしれません。それでも「あなたは神にとって大切な人です」と言い、そして「あなたが神を探さなくても、神があなたを探しておられるのです」と続けましょう。

心配するところを持って、これらの問いかけをよく考えましょう。そして、子どもたちであるわたしたちを、いつも喜んで探し、面倒をみてくださる、わたしたちの御母、聖母マリアに祈りましょう。

「死者のためのミサ」が開かれます

司 式 : 中村克徳司祭
 日 時 : 11月6日(日) 14:00から
 場 所 : カトリック池田教会聖堂
 聖書と典礼 : 年間第32主日C年

11月のガラスケースのみ言葉

目を覚ましていなさい。あなた方は、その日、その時を知らないからである

マタイ 25:13

福音宣教委員会撰

11月のみ言葉についての解説

中村克徳 神父

中世の時代に生まれたクラシック音楽は、わたしたちに心のやすらぎを与え、深く親しまれてきました。その始まりはグレゴリア聖歌に代表される教会音楽ですが、人々の生活が多様化されるにつれて、独立した音楽の分野として発展し、多くの作曲家が名曲を世に生み出しました。なかでも中世バロック音楽の代表者の一人である、ヨハン・セバスティアン・バッハは、ルター派の教会でオルガニスト兼作曲家として活躍し、彼の手による幾つもの名曲は現代でも多くの人に親しまれています。

なかでもカンタータ第140番は、マタイ福音書25章に描かれる「十人のおとめ」のたとえ話をモチーフにし、実際のミサ典礼で演奏されたものです。全7曲で構成されるこのカンタータには、三つのコラールが織り込まれ、特に第一曲目の「目覚めよと、物見らの呼ぶ声あり」の美しく調和のとれたコーラスと、第四曲目の「シオンは物見らの歌うのを聴く」のテノールの歌声は、多くの人々を魅了する名曲として高い評価を受けています。

曲調はとても明るく、物見たちが乙女たちに、花婿であるイエスが来られるから目を覚ましなさいと呼び掛ける声が響き、花婿の到着に心躍らせる乙女たちの姿が目映るようです。主イエスの再臨の喜びは、この楽曲の美しいメロディーのように現わされるのだと、聞き手にその情景を思い浮かべることを促しています。

しかしながら、マタイ福音書のたとえ話を紐解いてみると、状況が幾分異なっていることに気がつきます。このお話はイエス様が天の国について弟子たちに語ったたとえです。花婿の到着が遅れたため眠り込んでしまった十人の乙女たちは、二つのグループに分かれてしまいます。賢い五人の乙女たちは灯に用いる油を用意していましたが、愚かな五人の乙女たちはそれを怠っていました。彼女たちは真夜中に油を買いに行かざるを得ず、油を手に入れて戻った時には花婿は既に到着した後で、入り口の扉は無残にも閉められてしまったのです。主イエスは次のように締めくくります。「目を覚ましていなさい。あなた方はその日、その時を知らないからである」と。

この十人は、イエス様と天の国の到来のために、結婚せずに生涯を捧げる人生を歩きました。それは天に富を積む美德なのですが、彼女たちは眠気に負けて全員眠り込んでしまいます。それでも花婿の到着の知らせを聞くと、目を覚ましてイエス様を迎える準備に入ります。しかし、五人の乙女たちには灯をともし「油」がありません。

この油とは何を指しているのでしょうか。マタイ福音書の24章から25章には、世の終わりについてのイエス様の説教がまとめられています。その終わりは最後の審判のたとえ話で、天国に迎えられる人々と入れてもらえない人々とが対比されています。前者は誰かに対して善い行いをした人々であり、後者はそれを怠った人々です。イエス様は言います。「これらのわたしの兄弟、しかも最も小さな者の一人にしたことは、わたしにしたのである」と。いざその時になって油を買いに走っても手遅れです。天の国に入るために必要な油は、わたしたちの日々の善い行いによって準備されるものなのです。

10月にカール記念館と司祭館のドア・ホーンを更新しました

更新されたドア・ホーンの釘を押すと、教会内の全ての電話機の呼び出し音が鳴り、着信ランプが点滅し、表示部に「ドア・ホン 着信」と明示されます。

電話機の表示部にドア・ホーン1（カール記念館）またはドア・ホーン2（司祭館）のいずれかが明示され、その呼び出し音も異なりますから、訪問者のアクセス・サイトが判ります。受話器を持ち上げ、通話できます。

配線工事に伴い、既設のドア・ホーン受話器は使用不可となり、幼稚園との内線機能も中断しました。

文責 古宮

ノノイ神父様が播かれた種を育てます！ お元気で…

10月5日10時、池田教会の中庭

10年余の日本滞在期間の後半5年に池田教会の主任司祭ノノイ・プラザ様は大きな身体から共に抱ける希望の種を播かれました。2022年10月5日（水）午前10時の池田教会中庭では、集まったシニア信徒が「フィリピンと日本と離れて生きている限りは、その種を育てます」と言わん

ばかりの笑顔で神父様と別れの言葉を交わし、握手し、肩に手を添え、抱擁するなどして、別れの一時を過ごしました。

前任の畠基幸神父様と後任の中村克徳神父様のお二人はノノイ神父様に関西空港まで同行して、お見送りをなさいました。

（文 大野）

みんなの談話室

ノノイ神父様のフィリピン通信 I T.K.

ノノイ神父様は10/5(水)10:00a.m.総勢20人余りの見送りの中、10年ぶりで故国フィリピンに帰国されました。中村神父様が運転して、畠神父様とご一緒に関空まで送って行かれました。飛行機は3:00p.m.発。フィリピン到着は3時間半後の6:30 p.m.（現地時間5:30p.m.）ですから、時差は丁度1時間。

悲しい場面も楽しい場面にしてしまうノノイ神父様の魔法のお陰で、楽しい華やかなお別れ風景となりました。人種も言語も違う日本でのミッションはどんなに大変だったことでしょうか。私などには想像も出来ません。10年ぶりの故国はさぞ嬉しかったことでしょう。

神父様とLINE交換をしていらっしゃる方も沢山おられると思いますが、しておられない方のためにノノイ神父様通信をご紹介しますと思います。

まず飛行機の翼の映像～次に到着の一報、神父様の表情が嬉しそうで生き生き、思わず喜びが

伝わって来ました。

11日にはマニラの教会での早朝のごミサの様子の写真を、その後、神父様がバスケットボールでシュートされるビデオなどを送っていただきました。リラックスしたご様子の素晴らしいシュートです。

下の写真はマニラの教会での早朝ミサの風景(10/11)です。

そしてフィリピンでは、食事作りも何もかも一人で行わなければならない事。



そのために釣りをなさること…フィリピンでもお魚は非常に高いとか。

で、私は神父様にアニサキスを食べないようになさってくださいと申しあげました。

そして13日には故郷に帰り、新年までそこで過ごされる事などを知らせてくださいました。ご自宅を住みやすくするために、大工仕事に精を出されるそうで、当分の間なさることが沢山おありのようです。

そして、ご近所には親戚が何と100人余りいらっしゃるとか、何処に行っても親戚に会うとの事。

私も池田教会の様子…新しい典礼の練習が始まった事etc.をお伝えしました。

私は、今、文字打ちが左手の人差し指でしか打てなくなりました。でも出来る間は神父様のニュースをお知らせしたいと思います。文章が稚拙なこと、文字打ちの間違いなどをお許ください。

Salamat po!

表紙の絵について

年間第34主日である11月20日は、「王であるキリスト」の祝日である。次の日曜日はもう待降節に入る。王であるキリストと言う表現から、万軍の王、光り輝く存在、使徒信条の「天に上がって全能の神である父の右の座につき」、という威風堂々とした様子を思い浮かべてしまうが、そうとも言えない。ルカによる福音の23章では、ピラトがイエスに「お前がユダヤ人の王なのか」とたずね、イエスは「それはあなたが言っていることです」と答える。その後、十字架に張りつけられたイエスの頭の上には「これはユダヤ人の王」と書いた札が掲げられていた。兵士たちは「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」とイエスを侮辱して言う。しかし、磔刑を受けた犯罪人の一人が「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と願うと、イエスは「はっきり言っておくと、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と答えられたのだった。

表紙の絵は、イタリアのヴェローナにあるサンゼーノ教会の祭壇画として、1457年から1460年の間に、アンドレア・マンテーニャが描いたもの。現在はルーブル美術館に収蔵されている。

宝塚黙想の家からのお知らせ

- 日帰り黙想会 10:00~15:30
11月8日(火) 指導: 稲葉 善章 神父
11月24日(木) 指導: 染野 治雄 神父
11月25日(金) 指導: 山内 十束 神父

- 一泊黙想会
11月 8日(火)17:00~9日(水) 15:30
指導: 稲葉 善章 神父
11月25日(金) 17:00~26日(土) 15:30
指導: 山内 十束 神父

- カトリック教会のカテキズム
11月 9日(水) 10:00 ~ 12:00
11月23日(水) 10:00 ~ 12:00
指導: 染野 治雄 神父

- 聖地エルサレムを学ぶ
11月17日(木) 10:00~12:00
指導: 笹田六合豊 修道士

- ギリシャ語で味わう聖書のことば
11月1日(火) 10:00~12:00
指導: 稲葉 善章 神父

- 聖書の基本
11月 2日(水) 10:00 ~ 12:00
11月16日(水) 10:00 ~ 12:00
指導: 山内 十束 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797 (84) 3111

編集後記

朝夕の冷え込みが厳しくなり、酷暑の夏が遠のいていきました。激しい気温差に何を着て良いのやら天気予報を注意深く拝聴する毎日です。

季節の移ろいがあるのは地球の地軸が傾いているから、なのですが、この絶妙な角度は23.4度だそうです。季節の美しい移ろいを見るたびに、神様が調整してくれた絶妙な角度に感謝してしまいます。

Ana